

戦後の混乱期の中、国民に希望と勇気を与えるため、昭和21年に戦災を免れた京都府を中心とした京阪神地域において「第1回国民体育大会」が開催されました。

その後、第3回の福岡県大会から都道府県対抗方式が確立し、天皇杯と皇后杯が創設され、現在に至る国民スポーツ大会（令和6年佐賀大会から名称変更）。

テニス競技では選手2名によるチーム戦でシングルス2試合を行い、1-1になった場合ダブルスで決着をつけるフォーマットで実施しています。また15歳以上18歳未満選手による少年種別男女と18歳以上の選手による成年種別男女の計4種目があり、それぞれの結果によって得点が配分され4種目の合計得点で争う天皇杯と女子の得点合計だけで争う皇后杯があります。2016年の岩手大会では総合1位で天皇杯を獲得しました。

兵庫県テニス協会では、この国スポをアスリートのキャリア形成において非常に有効な機会であると考えております。「ふるさと」の代表として戦うということは特別な機会です。また、改めて自身のルーツを振り返り、世代の違う選手や専門スタッフ達と行動を共にしたり、他競技の代表選手から刺激をもらうことは、普段の個人戦にはない貴重な学びの場となります。

たしかに勝敗が日本ランキングや世界ランキングの対象大会ではなく、4日間の過密日程に8ゲーム先取・ノーアドという試合方式、砂入り人工芝のコート・・・選手にとってはモチベーション維持に戸惑いを感じるころがあるかとは思いますが、当協会としましては様々なサポートで選手と一緒に天皇杯・皇后杯を目指していきたいと考えています。今回もチーム一丸となってみんなで天皇杯を目指していきたいと思ひます。

過去10年間の兵庫県代表は以下の通りです。これまでの代表の皆さんの熱い思いをしっかりと滋賀に繋げたいと思ひます！

2024 佐賀

- 成年男子 上原伊織・三井優太
- 成年女子 石川こころ・梶野桃子
- 少年男子 西山大和・和田陽向
- 少年女子 上田莉恋・藤堂藍

2023 鹿児島

- 成年男子 増成智也・上原伊織
- 成年女子 梶野桃子・堺愛結
- 少年男子 逸崎獅王・小夏秀太・古西雄翔
- 少年女子 小山ほのり・朝倉優奈

2022 栃木

- 成年男子 上原伊織・末岡大和
- 成年女子 梶野桃子・古西美桜
- 少年男子 原崎朝陽・唐津裕貴
- 少年女子 吉田梨真・中村藍

2021 三重(中止)

- 成年男子 羽澤慎治・藪田司
- 成年女子 今田穂・古西美桜
- 少年男子 原崎朝陽・南颯汰
- 少年女子 石川こころ・里菜央

2019 茨城

- 成年男子 羽澤慎治・松本樹
- 成年女子 伊藤沙弥・堺愛結
- 少年男子 高畑里玖・東竜平
- 少年女子 木本海夢夏・松下菜々

2018 福井

- 成年男子 松本樹・水口凌
- 成年女子 岸上歌華・堺愛結
- 少年男子 阿多竜也・東竜平
- 少年女子 木本海夢夏・伊藤さつき

2017 愛媛

- 成年男子 松本樹・林大貴
- 成年女子 伊藤沙弥・伊藤遥
- 少年男子 平川暉人・増田快斗
- 少年女子 一瀬瑠南・久田真穂

2016 岩手

- 成年男子 近藤大生・田代悠雅
- 成年女子 伊藤遥・岸上歌華
- 少年男子 羽澤慎治・大島立暉
- 少年女子 伊藤沙弥・末野聡子

2015 和歌山

- 成年男子 竹元佑亮・林大貴
- 成年女子 久見香奈恵・樋口由佳
- 少年男子 田代悠雅・大島立暉
- 少年女子 藤原夕貴・末野聡子

2014 長崎

- 成年男子 竹元佑亮・上原伊織
- 成年女子 伊藤遥・村上亜利沙
- 少年男子 藤井遼太郎・田代悠雅
- 少年女子 橘彩音・中谷琴乃

